

1990年ショパンコンクール最高位受賞
世界の三大ピアノコンクール入賞者

F.ショパン：〈ポロネーズ〉第5番
嬰へ短調 作品44

F.Chopin:Polonaise no.5 fis-moll
Op.44

F.ショパン：〈前奏曲〉嬰ハ短調
作品45

F.Chopin:Prélude cis-moll Op.45

I.パデレフスキ：〈ピアノソナタ〉
変ホ短調 作品21 ほか

I.Paderewski:Sonate pour piano
es-moll Op.21

※曲目は変更になる場合がございます。
あらかじめご了承ください。

名古屋大学キャンパスコンサート2018 ケヴィン・ケナー ピアノリサイタル

Nagoya University Campus Concert 2018
Kevin Kenner Piano Recital

2018年6月13日(水)18:30開演 18:00開場
名古屋大学東山キャンパス 豊田講堂ホール

入場無料

※予約は不要です。直接会場へお越しください。

※未就学児の入場はご遠慮ください。

障害等のある方で配慮が必要な方は5月23日(水)まで
にご相談ください。

愛知県立芸術大学アーティスト・イン・レジデンス2018関連事業

共催：国立大学法人 名古屋大学、愛知県公立大学法人 愛知県立芸術大学 | 企画：愛知県立芸術大学芸術創造センター、音楽学部器楽専攻ピアノコース
お問い合わせ：名古屋大学 Development Office (DO 室) 〒464-8601 名古屋市中種区不老町 Tel. 052-747-6558 (平日 9:00 ~ 17:00)

“ギレリス以来の暖かく、金色に輝く音色”

(Jacques Drillon - Le Nouvel Observateur)

“記憶に残る中で、最も繊細で美しいショパン解釈”

(指揮者 スタニスワフ・スクロヴァチェフスキ)



©Shawn Clark

ケヴィン・ケナー Kevin Kenner

1990年はピアニスト ケヴィン・ケナーにとって記念すべき年となった。彼の芸術的手腕が3つの名声ある賞の受賞によって世界に認められる年となったからである。その3つとは、ショパン国際ピアノコンクール(ワルシャワ)での最高位(同時に聴衆賞、ポロネーズ賞の受賞)、国際テレンス・ジャッド賞(ロンドン)、チャイコフスキー国際コンクール(モスクワ)での銅賞の受賞(同時にロシア作品最優秀演奏賞受賞)である。それに先立つ1988年にはジーナ・バッカウアー国際ピアノコンクール(ソルトレイクシティ)や1989年ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール(フォートワース)でも輝かしい成績を残した。

ソリストとして、ハレ管弦楽団、BBC交響楽団、ベルリン交響楽団、ワルシャワ・フィルハーモニー、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、ベルギー放送フィルハーモニー管弦楽団、NHK交響楽団等の世界的に著名なオーケストラ、また米国ではサンフランシスコ、カンザス、ニュージャージー、ローチェスター、ボルティモア他多数の主要オーケストラと共演を果たしている。また、チャールズ・グローヴズ、アンドリュー・デイヴィス、ハンス・フォンク、スタニスワフ・スクロヴァチェフスキ、イエジー・マクシミウク、カジミエシュ・コルト、イルジー・ビエロフラーヴェク、アントニ・ヴィット等著名な指揮者との共演も数多い。

近年の主な活動として、フランス・ブリュッヘンと18世紀オーケストラの共演、Ensemble XIXとの演奏及び録音、1826年のグラフを用いてパリのシテ・ド・ラ・ミュージックでのショパン作品リサイタル、またパデレフスキ生誕150周年の記念コンサート及び録音、日本、米国、メキシコ、カナダ、ドイツ、フランス、イギリス、ポーランドでの演奏ツアー等が挙げられる。

録音も数多く行っており、ショパン、ラヴェル、シューマン、ベートーヴェン、ピアソラと多岐に渡る。近年ポーランドで室内楽カテゴリーにおいて最優秀賞の“フレデリック賞”を授与された。またピリオド楽器にも造詣が深く、1848年のブレイエルを用いて国立ショパン研究所のレーベルで録音したショパンのソロピアノ作品集はフランスのディアパソン誌にて5つ星を獲得した。2018年3月ワーナー・クラシックスより、チョン・キョンファ氏とのデュオによる新譜“Beau Soir”を発表。今後同レーベルより、オール・ショパン・プログラムおよびワルシャワで作曲家自身のスタインウェイピアノを用いて録音したパデレフスキ・ソロピアノ作品集の3枚の新譜を発表予定。

2011年以降、ヴァイオリニスト チョン・キョンファからの熱烈なオファーを受け彼女の10年ぶりとなる活動始動に伴いデュオパートナーとして世界ツアーに参加。“美しく穏やかな真珠のような輝きを放つピアノイズム”(英・テレグラフ紙)と絶賛されるなど、キョンファのヴァイオリンを引き立てつつ存在感を放つアンサンブルは彼の高度な美的音楽性を聴衆に再認識させている。

英国王立音楽大学教授を経て、2015年9月より米国マイアミ大学フロスト音楽校教授。近年では、第17回ショパン国際ピアノコンクールに参加したチョン・ソンジンからの依頼によりコンクール直前に集中レッスンを行い、見事優勝に導いたことで、ケナーの教育者としての手腕が改めて認められた。

会場 名古屋大学 豊田講堂ホール



地下鉄名城線「名古屋大学」駅 2番出口より徒歩すぐ
※公共交通機関をご利用ください。